

2010MHC 登山講習 針ノ木岳(3180m)登山 報告

7月3日 AM5:30、小雨の松本を、車に乗り合わせて出発。AM7:00 総勢 13 名が大町扇沢に到着。AM7:30 準備を整え登山を開始する。登山道は、最初林道に沿い又は横切るように進む。登山道脇には薄紅のタニウツギ、キヌガサソウの花々が咲く。途中水量を増した溪流を渡り、倒木を潜り、無人の大沢小屋を經由して、AM10:00 大雪溪の末端に到着する。ここから軽アイゼンを装着し、いよいよ大雪溪の登山を開始する。



小雨の中、針ノ木登山道を行く



薄紅のタニウツギ



キヌガサソウ



大雪溪を登る

雪溪の雪質は硬く、登山靴先で蹴込み足場を確保するように、一步、一步登る。白い雪溪上には、支流の沢から流れ落ちてきた大小の石が散乱している。周囲を見渡しなが、落下物を注意する。1時間30分程登ると斜め左に方向を変え、針の木峠へ伸びる急勾配の斜面を登る。足が滑ると手を突き腹這い状態となって、滑落を停止するのに必死だ。右上部に、雲に見え隠れする針ノ木岳を望む。



急勾配の雪溪上部を登る



イワカガミ

残雪の針ノ木岳



PM1:15 ようやく峠に登り出て、針の木小屋に到着する。宿泊の手続きをして、室内で遅めの昼食を摂る。午後の計画を変更し、PM2:15、軽荷となって蓮華岳の山頂を目指す。砂礫帯の長い尾根道を進むと霧雨に打たれながら咲くコマクサの群落に出会う。花を踏まないように岩稜線を詰めて登ると、PM3:25 蓮華岳山頂 2798mに全員登頂する。雲間から槍ヶ岳、立山、剣、そして鹿島槍の峰々を望む。帰還途中、明日登る予定の、霧に見え隠れする針ノ木岳登攀ルートを目で辿り確認する。PM4:25 針ノ木小屋到着、泊す。

翌4日夜来の強い雨足に不安を抱きながら起床。小降りとなる AM6:30、登山支度を整え、針ノ木小屋前の雪斜面を利用し雪溪の歩行訓練をする。AM7:00 山頂を目指し出発する。10分程の登りで雪溪に出会い軽アイゼンを履く。ここから山頂近くの尾根道まで、急斜面の雪溪約500mをトラバース気味に登る。足を滑らせないように、落下の恐怖と戦いながら慎重に登攀を行う。1時間程で尾根道に出て、軽アイゼンを外し、一步一步登り詰めると、AM8:15 針ノ木岳山頂 2820mに見事登頂する。視界は効かず、冷たい霧雨が顔を濡らす。



急斜面をトラバース



尾根道を登る



針ノ木岳二八二〇m
に登頂「バンザイ」

15分程で下山開始。雪斜面を慎重に降下し、AM9:15 小屋に帰還、早めの昼食を摂り AM10:40 大雪溪を降りる。この時間になると、雪溪表面の雪質も緩んで、多少靴底の制動も効き易くなってきた。PM12:30 雪溪末端に辿り着き、PM2:40 扇沢に無事到着。車に乗り合わせ、PM4:00 過ぎ松本で最終解散とした。

「三大雪溪の大斜面に勇気を奮って登り、見事登頂。その感動の震えがいつまでも止まない」登山だった。

MHC 登山講習責任者 MHC 理事長 鈴木雅則